

原油安の影響などを受けたハイールド債 ～今後の投資家心理の改善が鍵に

11月下旬以降、急速な原油安の影響などから、新興国を中心にハイールド債は大きく下落しています。

その背景に、新興国や米国のハイールド債市場で、原油価格が今後も現在の水準で推移すると、エネルギー関連企業のハイールド債のデフォルト率上昇につながるなどの懸念が高まったことなどがあると見られます。加えて、ロシアなどのエネルギー輸出国の通貨が下落していることや、世界の株式市場もエネルギー関連株を中心に関調となるなど、投資家のリスク回避的な行動が強まったことも影響していると考えられます。

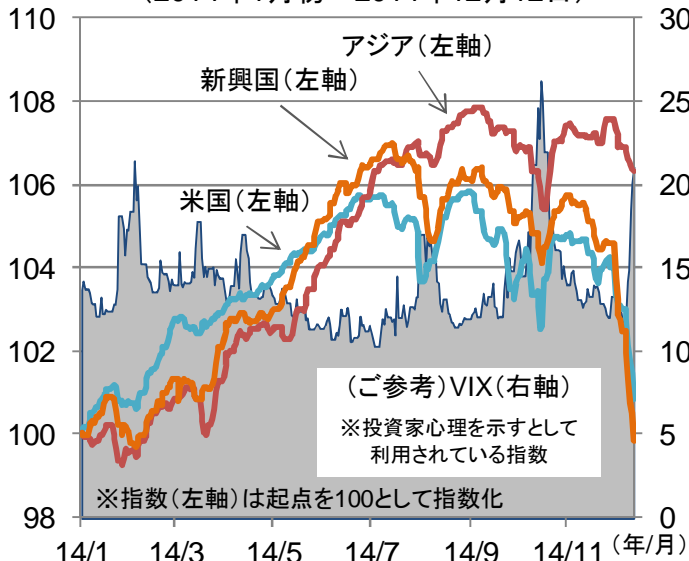
ただし、原油安は、エネルギーを利用する側にとっては恩恵があることから、世界全体で見れば、経済にとって追い風になるとの見方もあります。特に、原油を輸入に頼っている国々にとっては、企業収益の拡大やインフレ率の低下などの恩恵があると見られています。そのため、国・地域やセクターによって原油安の影響が異なり、すべてのハイールド債にとってマイナスとなる訳ではないと見られます。足元で、新興国や米国のハイールド債は、エネルギー関連企業の割合が相対的に大きいことなどから、全般的に売られる展開となっているものの、アジアのハイールド債は、中国の内需関連企業が多いことなどから下落幅は限定的となっており、一部で選別の動きも見られています。

また、原油安や米ドル高傾向は、米国のインフレ圧力低下につながることから、FRB(米連邦準備制度理事会)は利上げを急がないと見られ、低金利の継続はハイールド債にとって追い風となる可能性があります。足元で、ハイールド債の利回りが、価格下落により魅力的な水準となるなか、今後、投資家心理が落ち着くことに加え、原油安の経済への恩恵が投資家に意識されることで、価格は持ち直していくと期待されます。

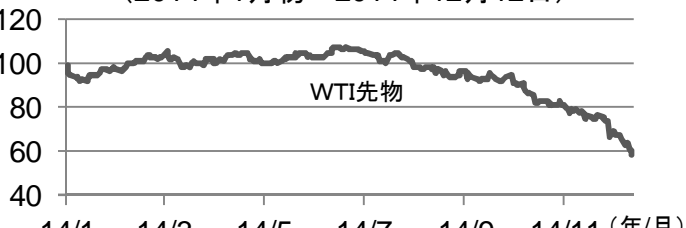
主なハイールド債の指数の推移

(2014年1月初～2014年12月12日)

(ポイント)(米ドル/バレル)(2014年1月初～2014年12月12日)

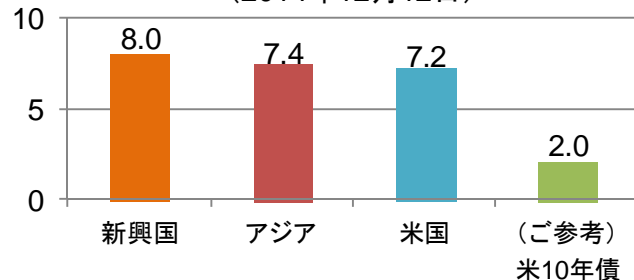


原油価格の推移



主なハイールド債の利回り

(2014年12月12日)



米国ハイールド債: BofAメリルリンチ米国ハイールドマスターⅡ、アジアハイールド債: JPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、BB格以下)、新興国ハイールド債: JPモルガンCEMBIブロード・ディバースィファイド・ノンインベストメント・グレード、(いずれも米ドルベース)

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。